

2025年度 学生生活に関する調査

学生委員会

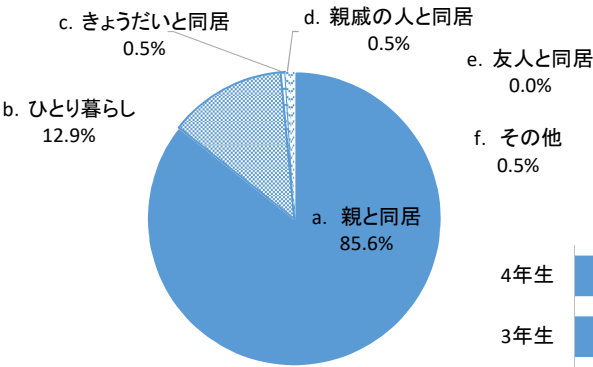
調査期間: 2025年9月～10月, 回答数: 202名 (回答率82.8%)

- 1年 56名 (93.3%) (学生在籍数60名)
- 2年 51名 (83.6%) (学生在籍数61名)
- 3年 44名 (74.6%) (学生在籍数59名)
- 4年 51名 (79.7%) (学生在籍数64名)

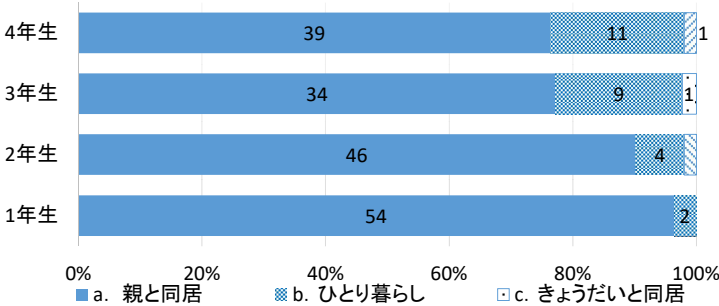
基礎データ、学習状況、経済状況、授業期間中の生活スタイル、その他の活動、心身の状況、学生生活全体の8項目に対し、e-learningで無記名回答を依頼した。

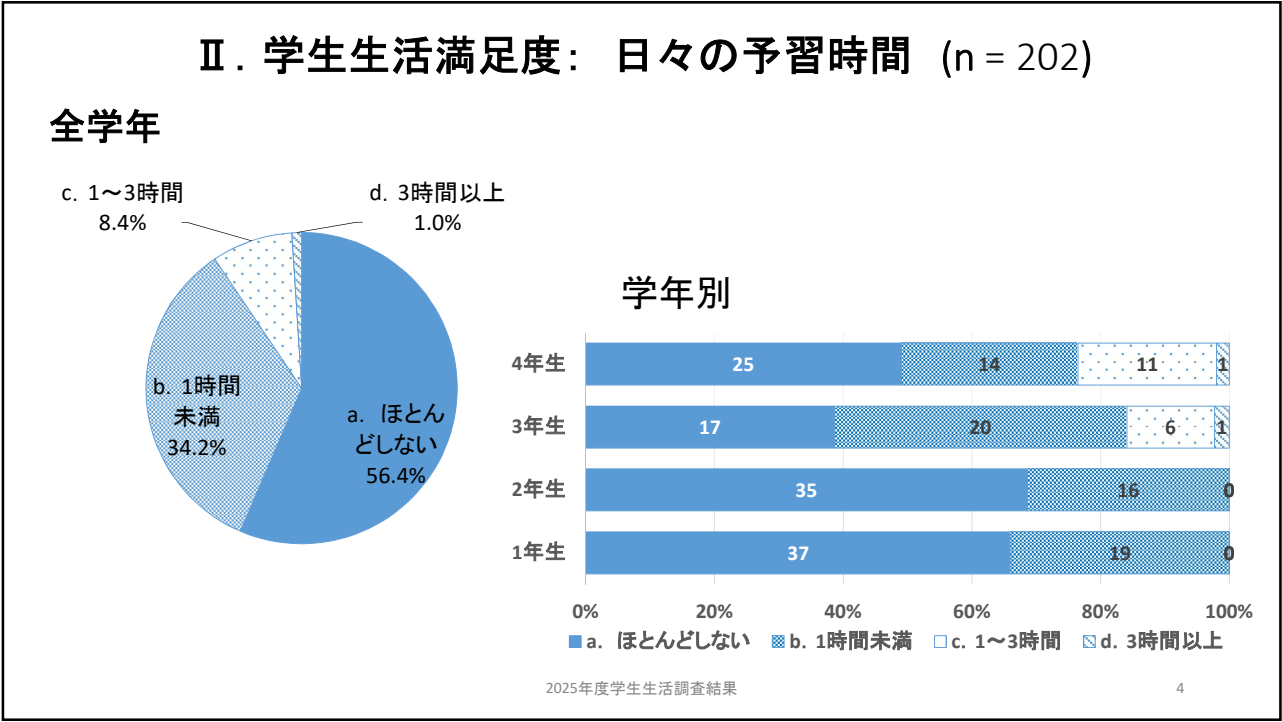
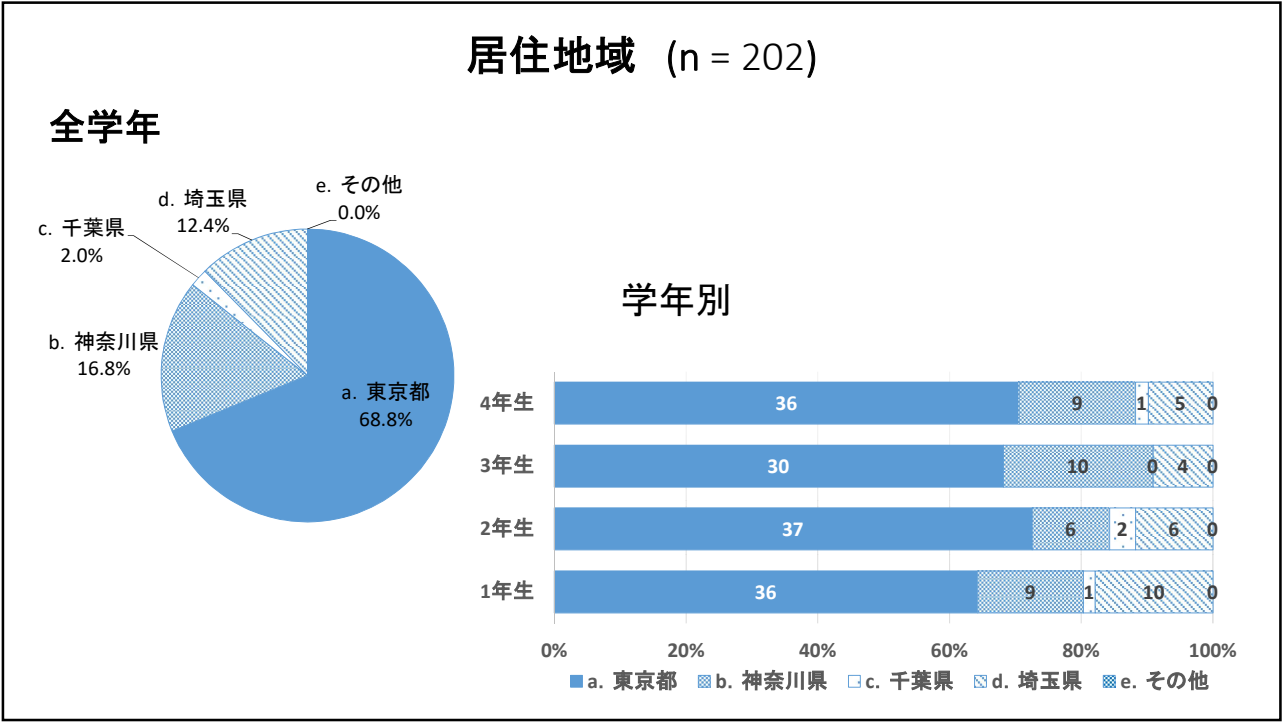
I.基礎データ 世帯 (n = 202)

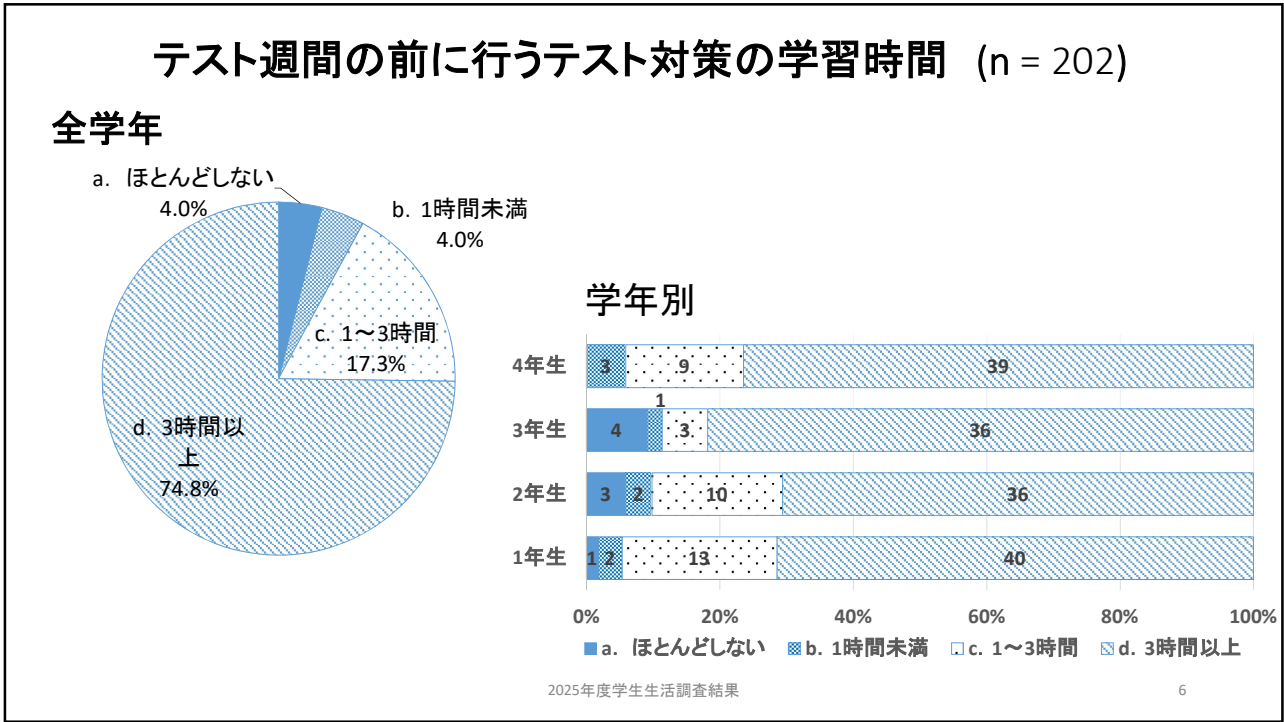
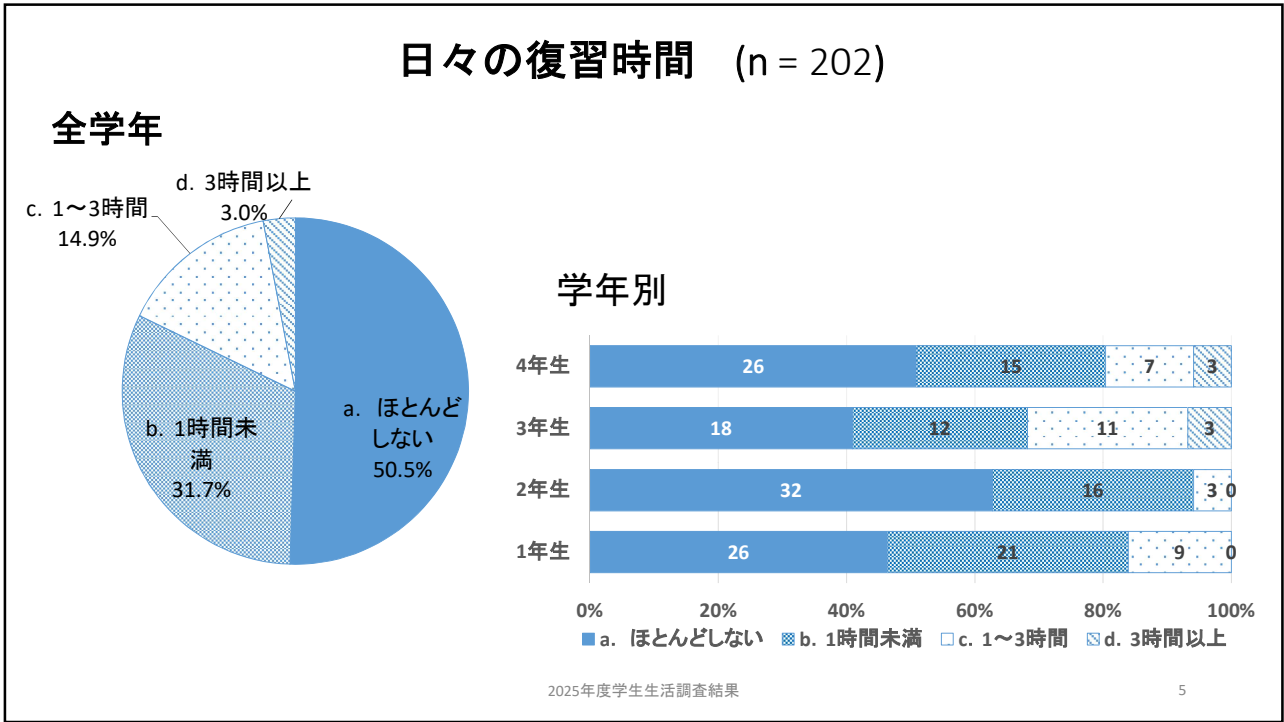
全学年



学年別

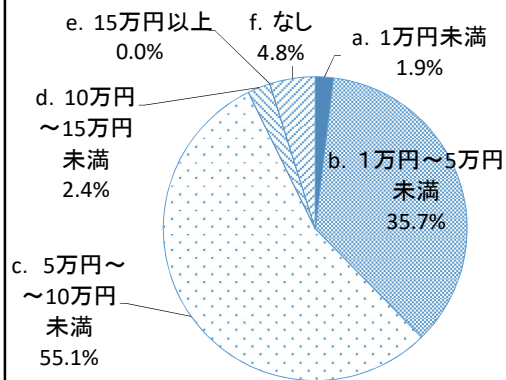




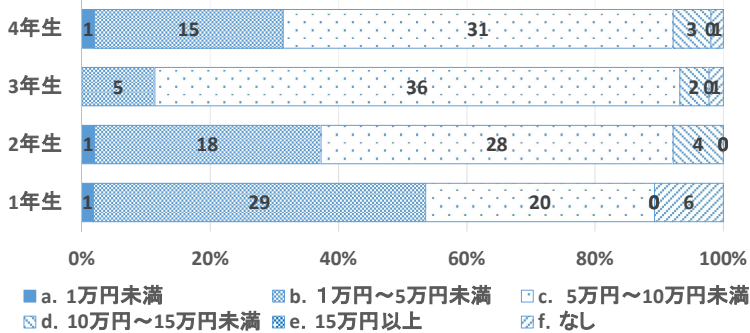


Ⅲ. 経済状況：授業期間中の1か月のアルバイト収入額 (n = 202)

全学年



学年別

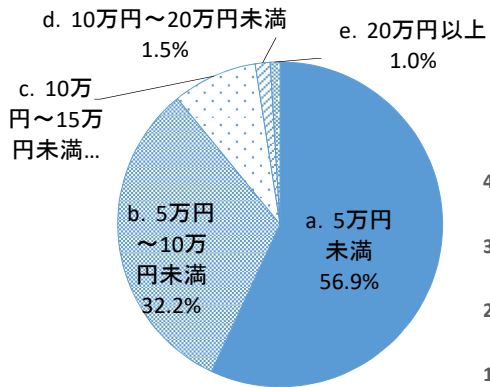


2025年度学生生活調査結果

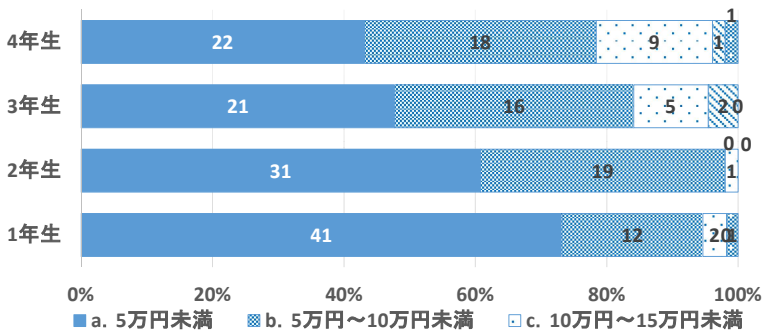
7

授業期間中の1か月の生活費 (n=202)

全学年

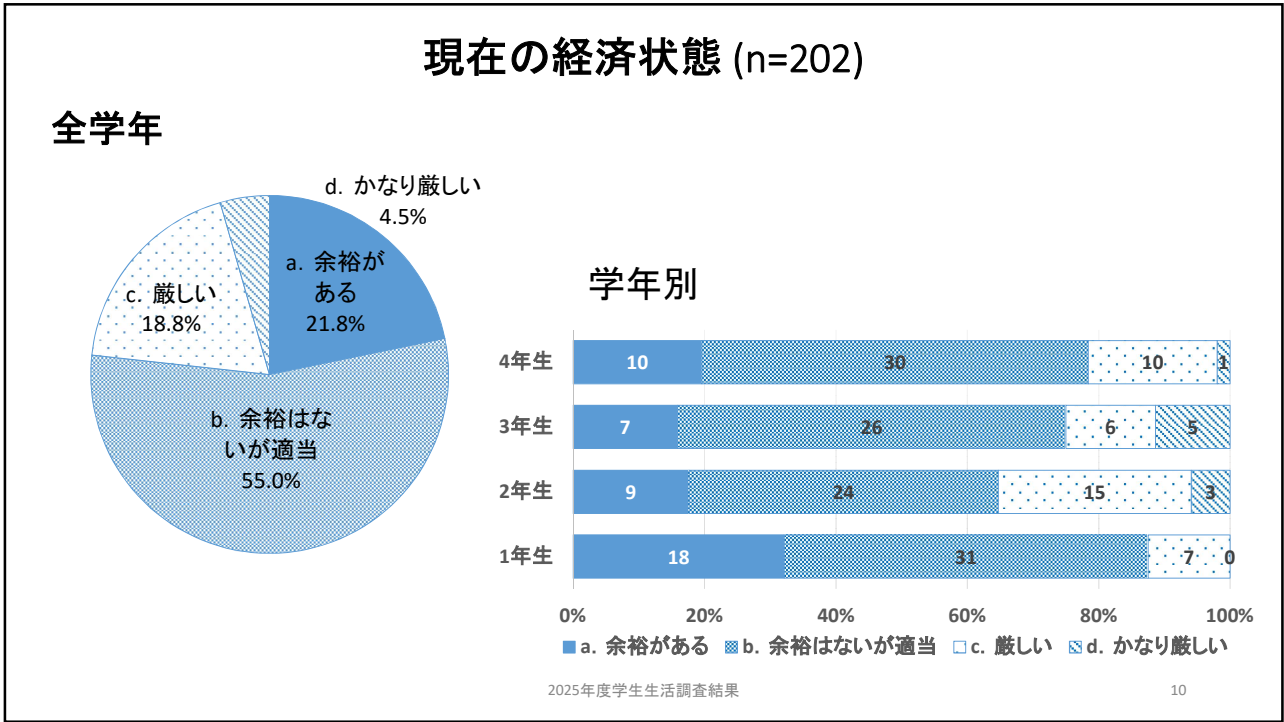
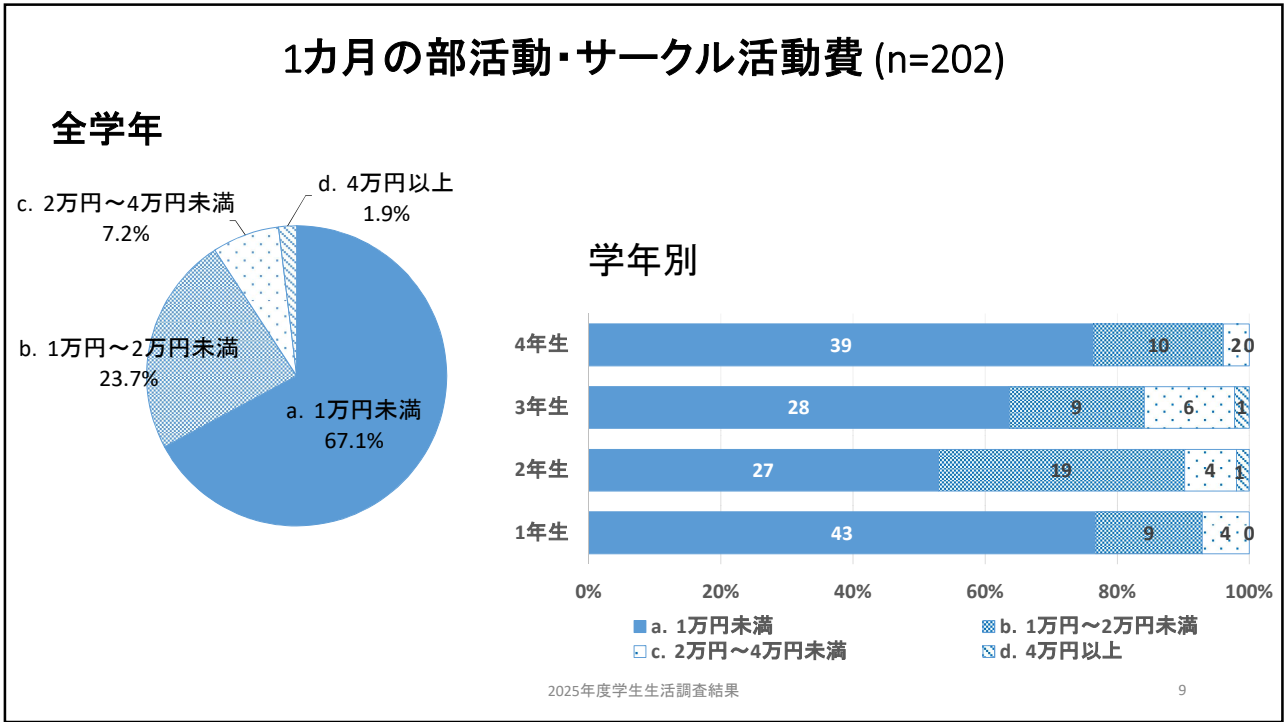


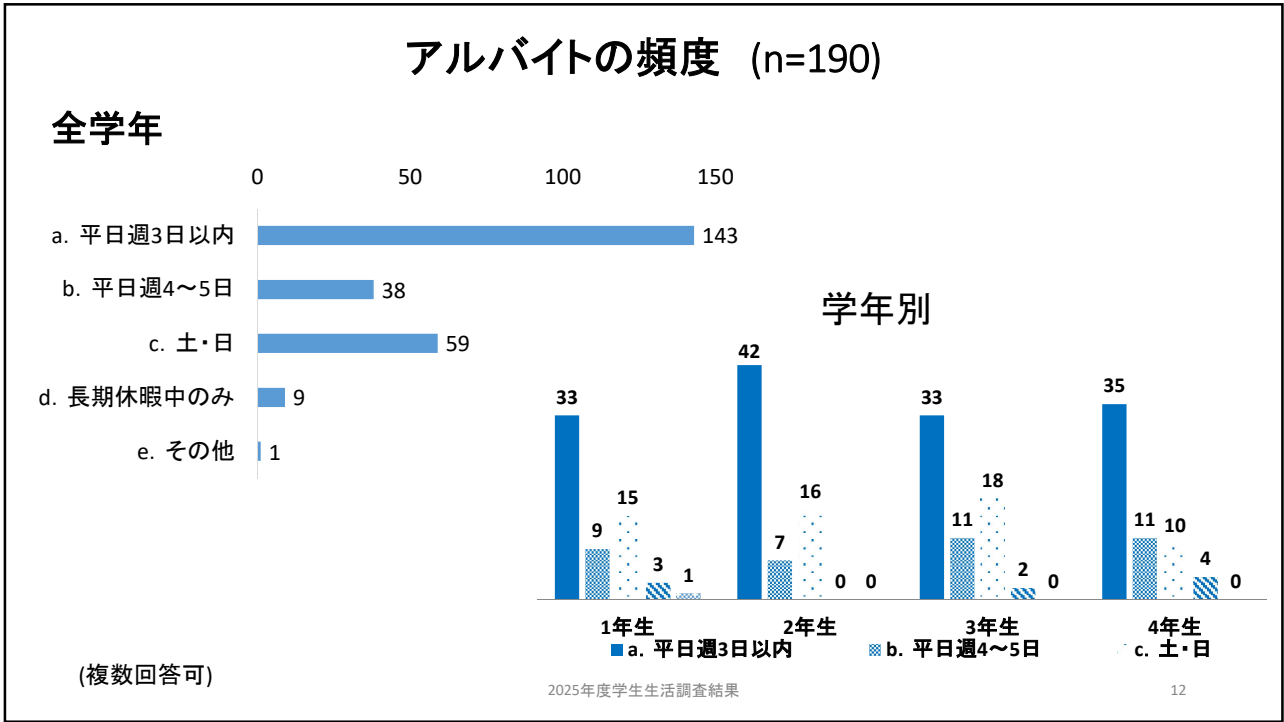
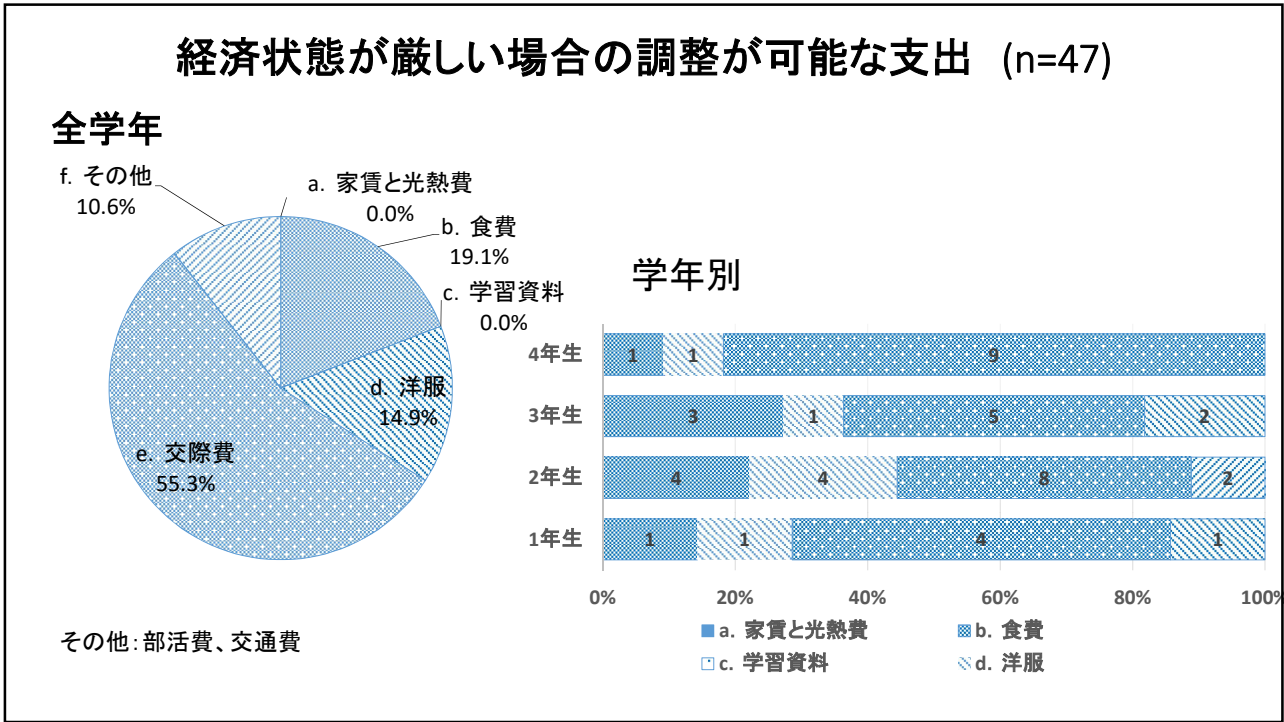
学年別



2025年度学生生活調査結果

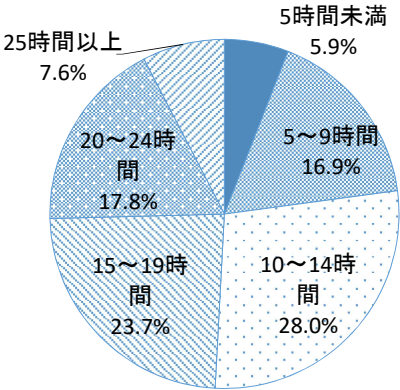
8



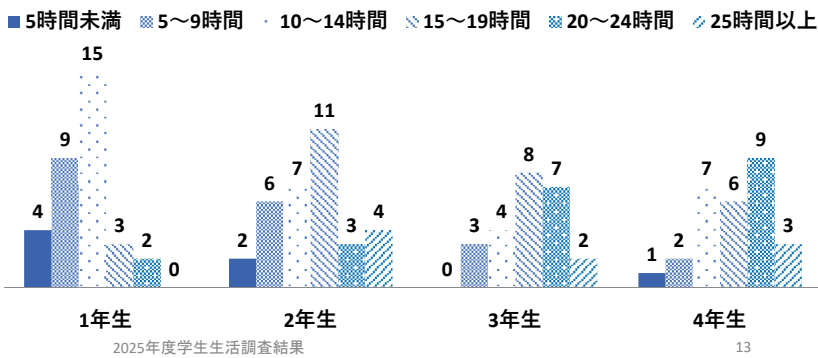


アルバイトの労働時間 (n=118)

全学年

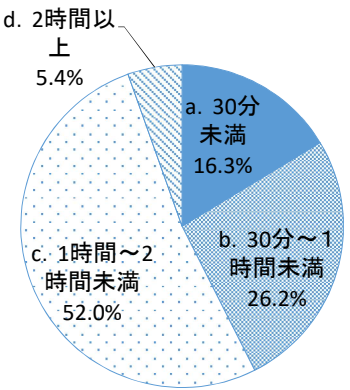


学年別

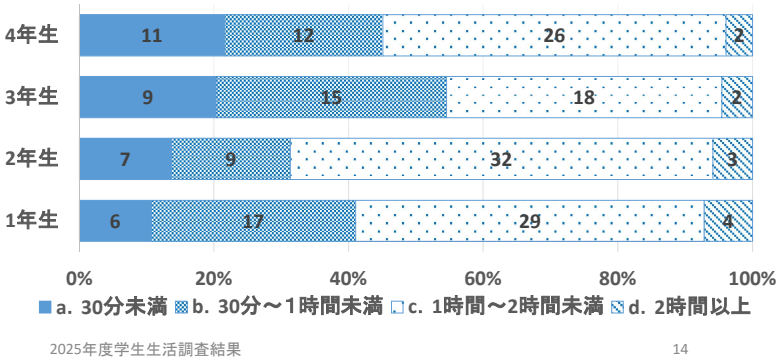


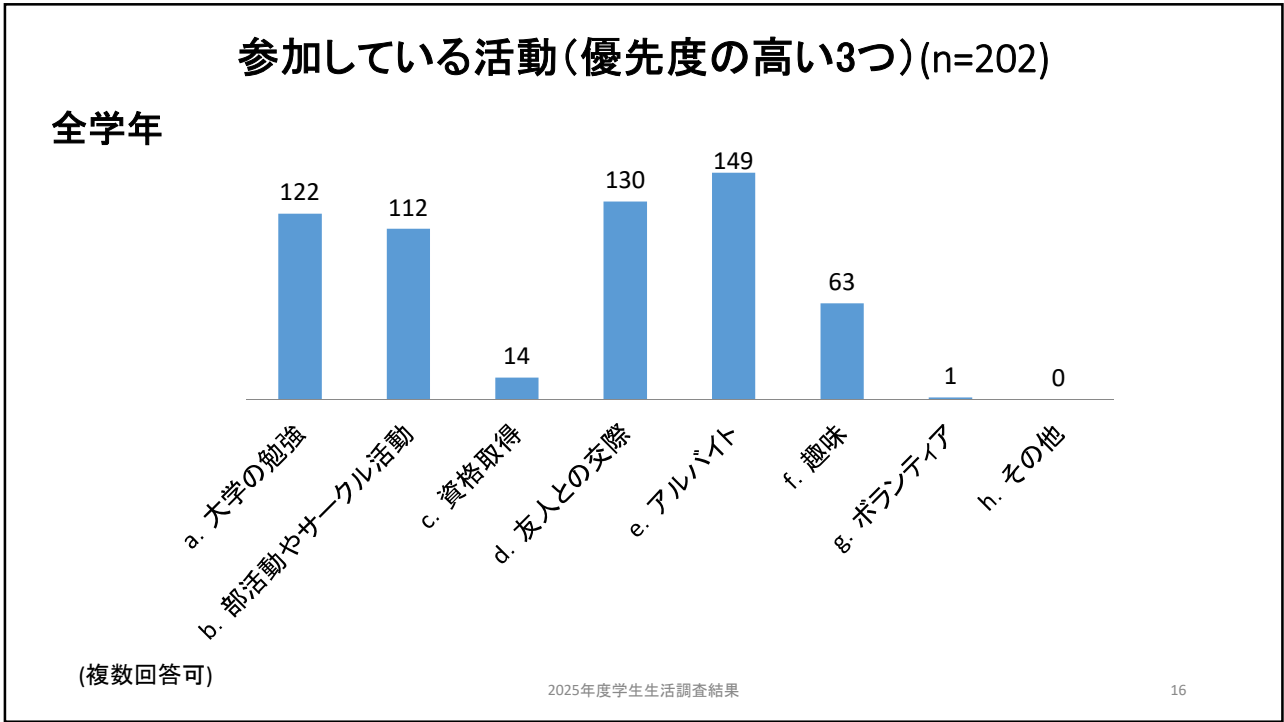
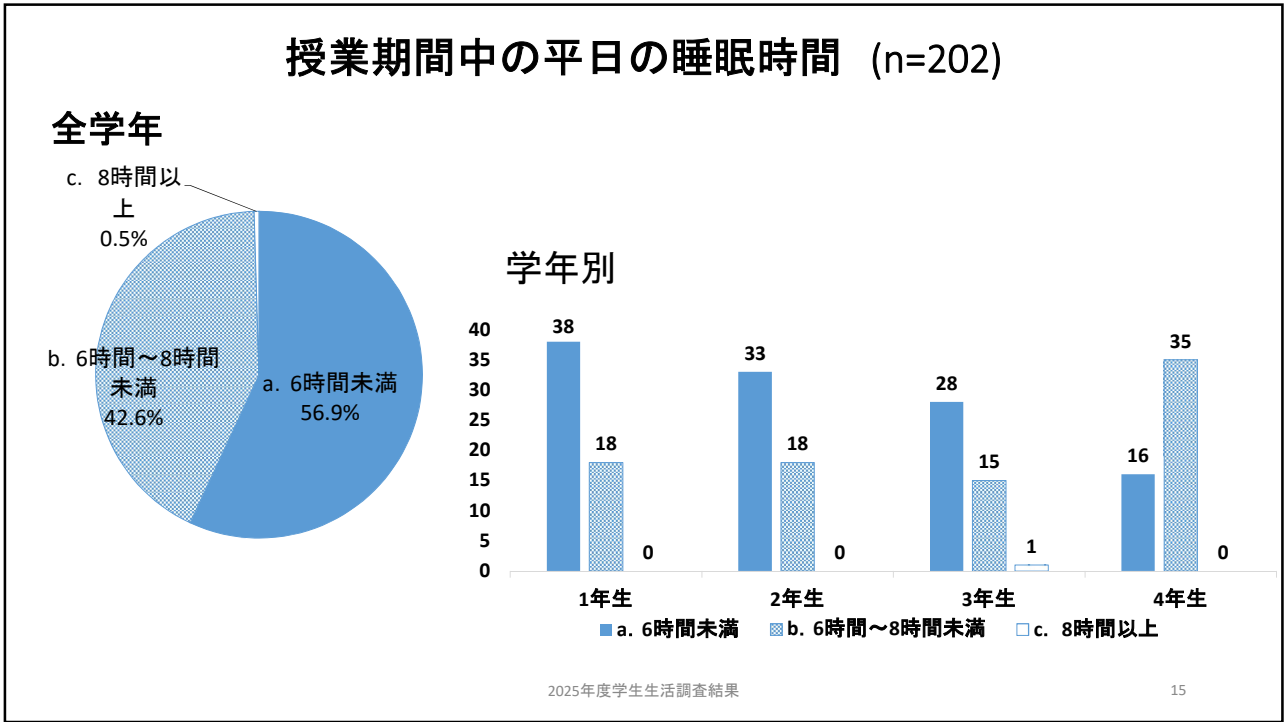
IV. 授業期間中の生活スタイル: 片道の通学時間 (n=202)

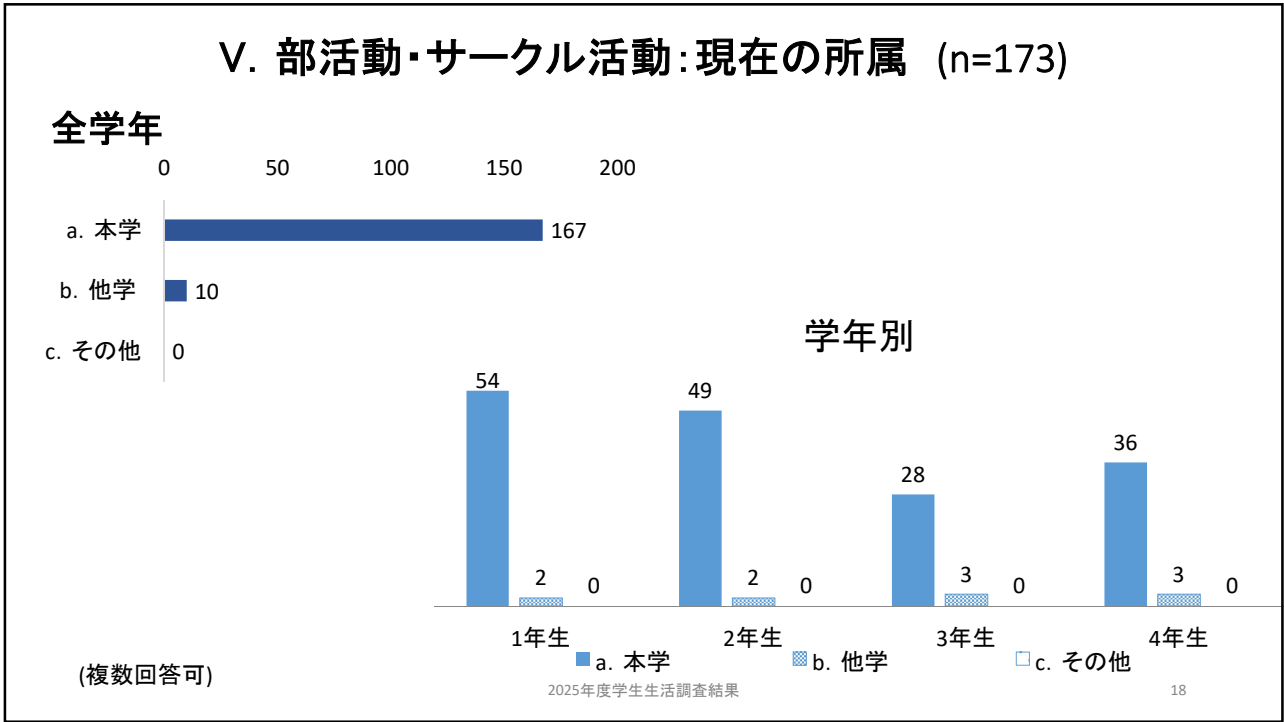
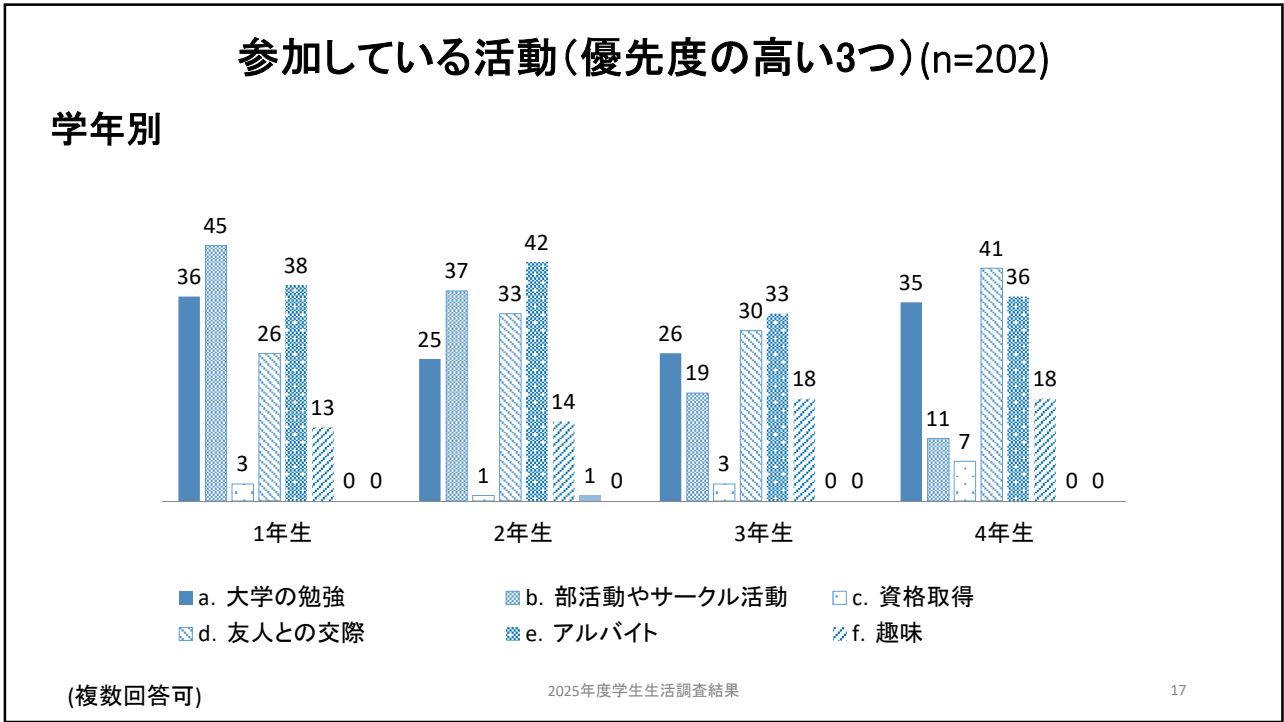
全学年



学年別

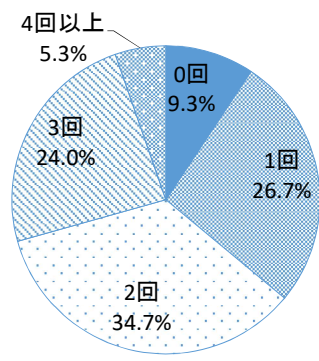




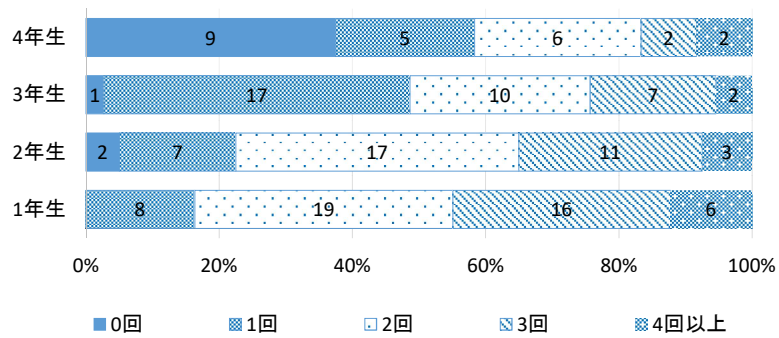


部活動・サークル活動への参加頻度(週平均) (n=150)

全学年

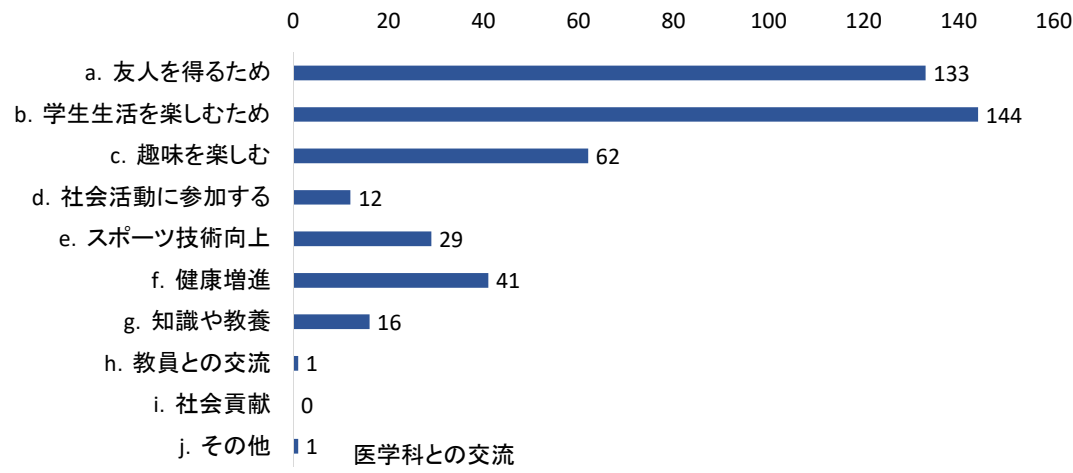


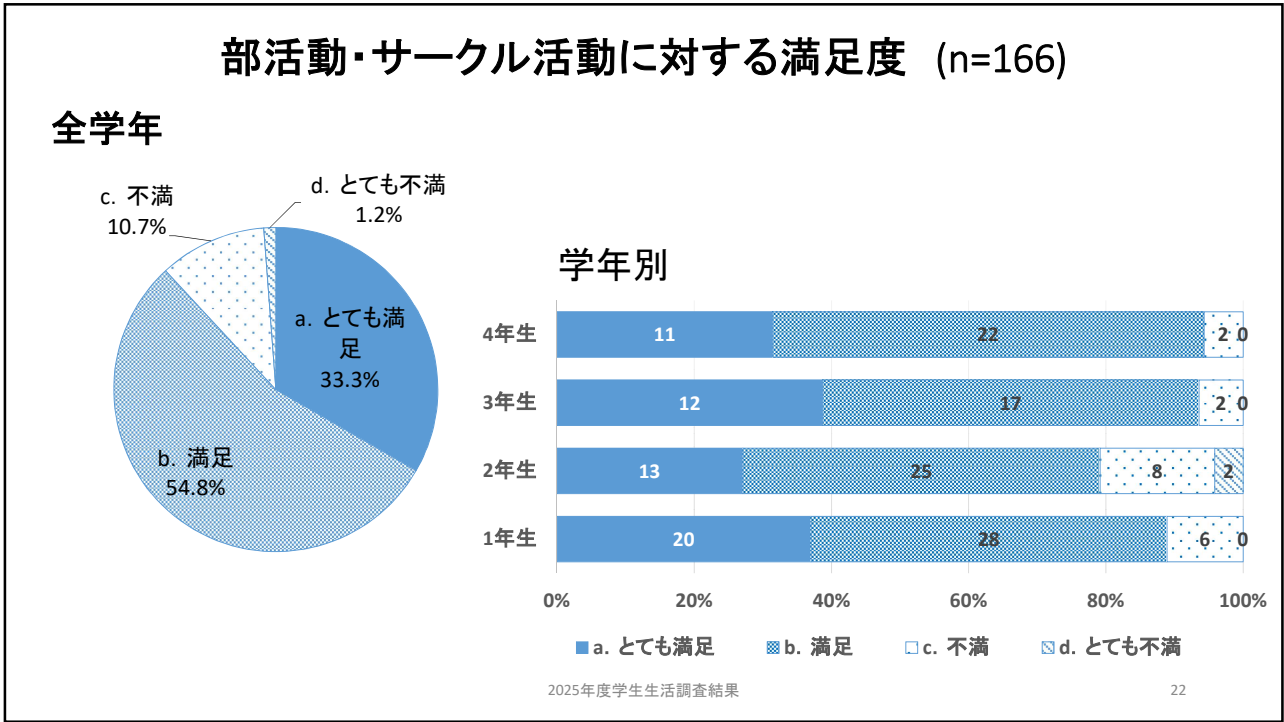
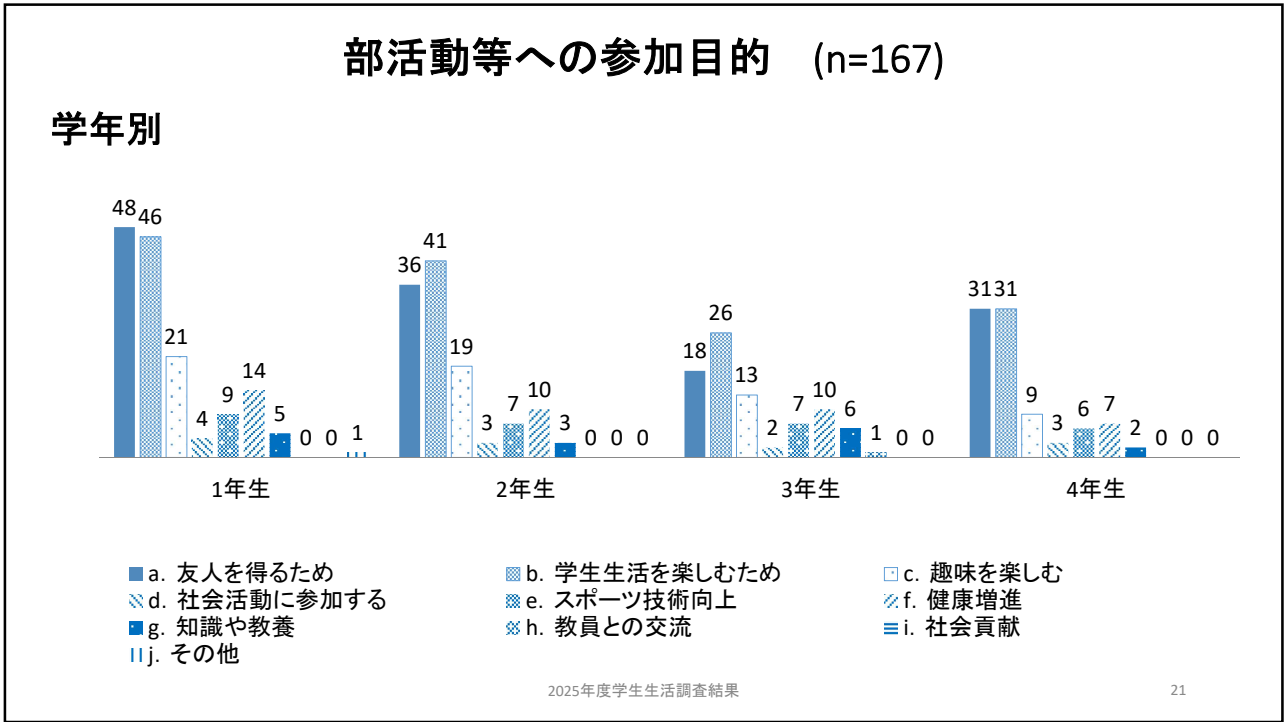
学年別



部活動等への参加目的 (n=167)

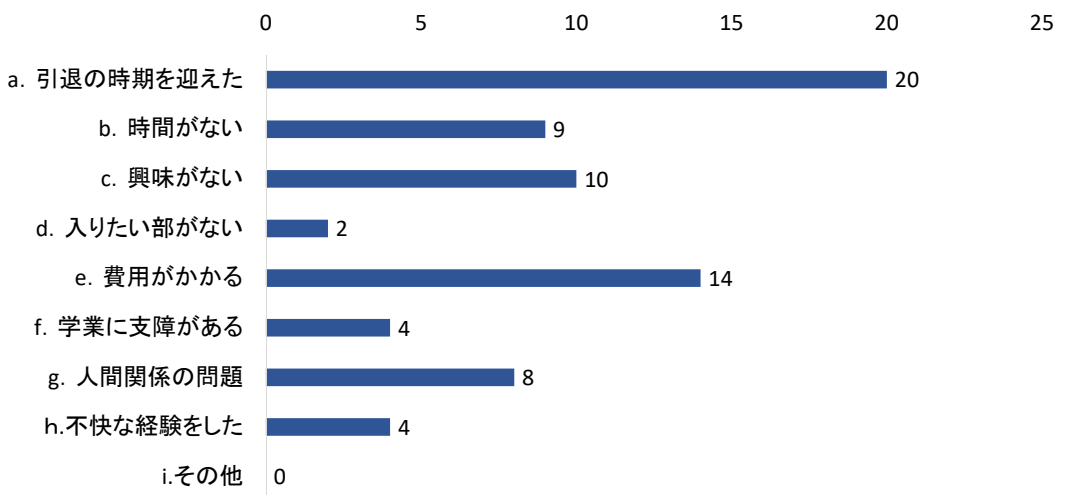
全学年





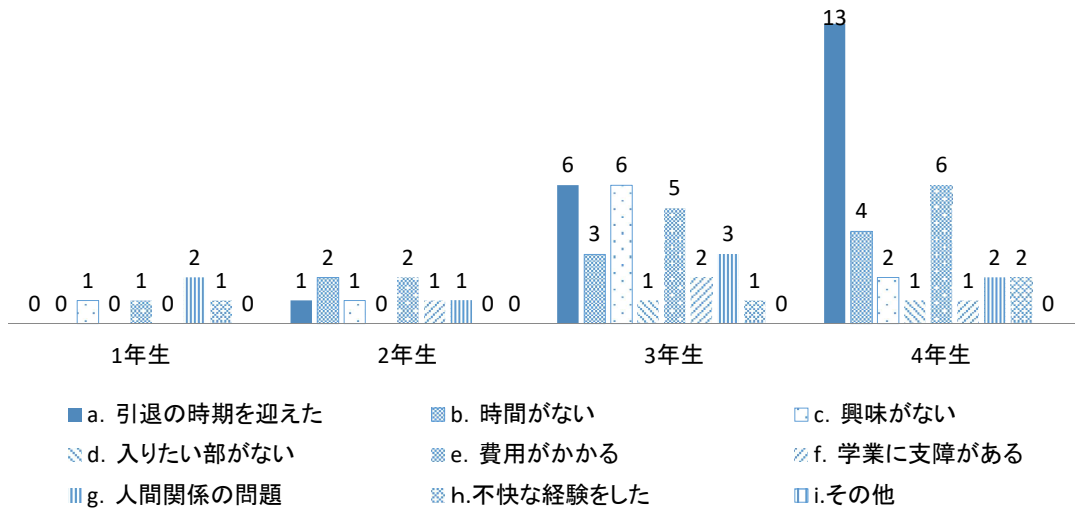
クラブ活動等に参加していない、または参加を途中で辞めた理由 (n=44)

全学年



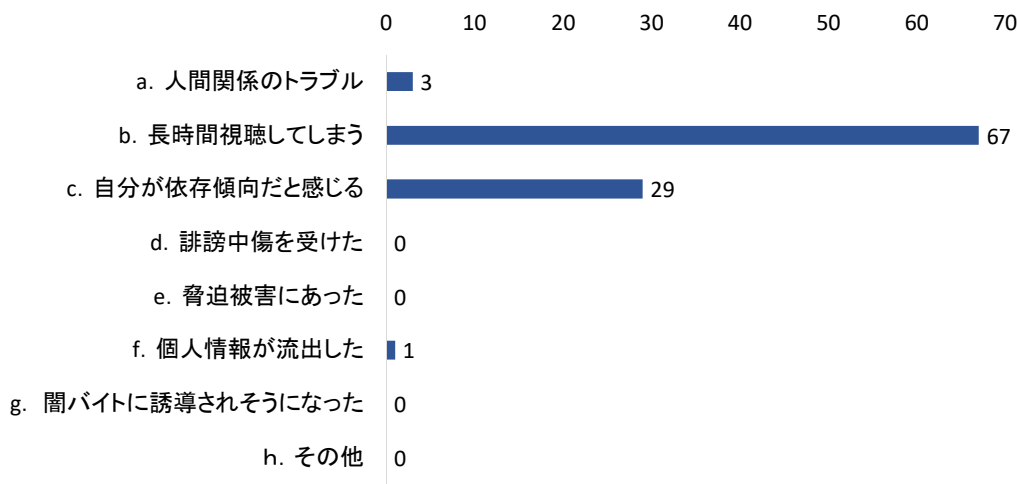
クラブ活動等に参加していない、または参加を途中で辞めた理由 (n=45)

学年別



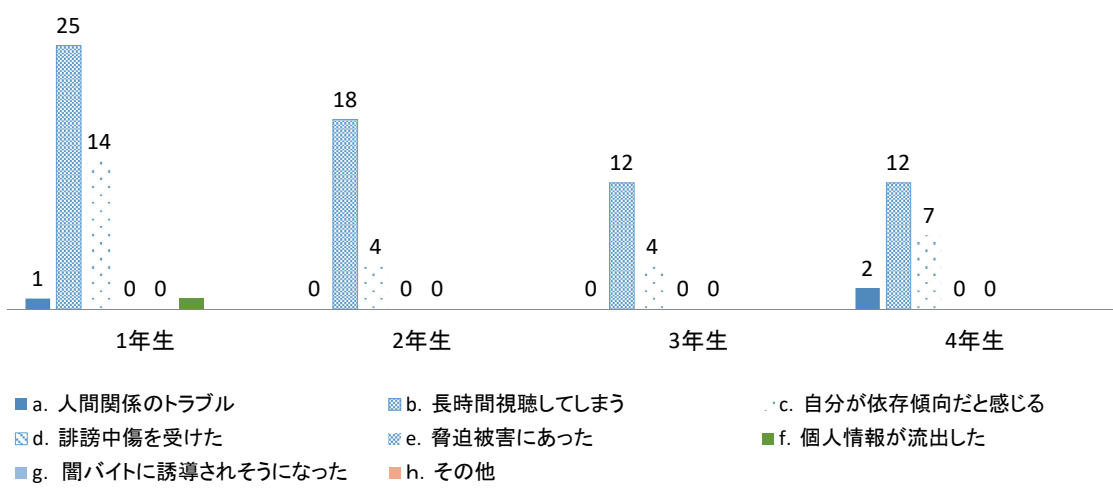
VI. その他の活動：SNSの使用について、困ったこと（n=71）

全学年



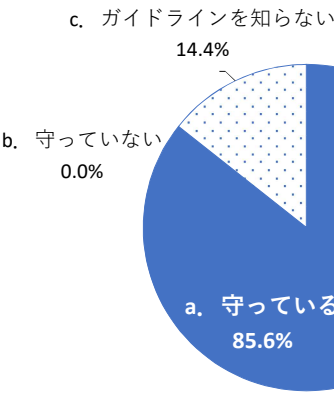
VI. その他の活動：SNSの使用について、困ったこと（n=71）

学年別

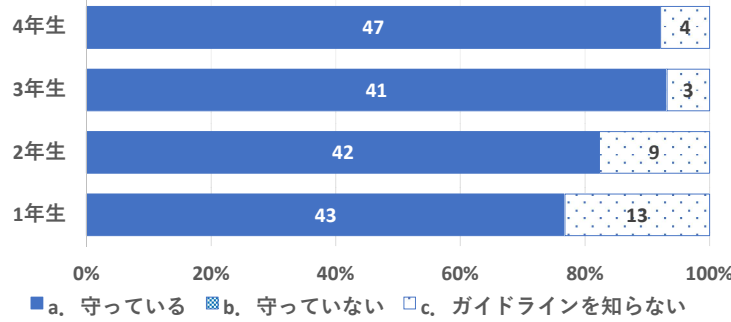


本学のソーシャルメディア利用ガイドラインの遵守（n=202）

全学年



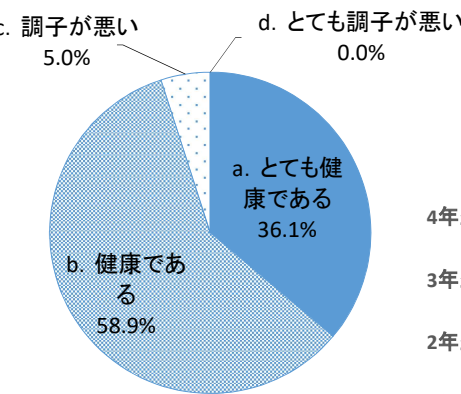
学年別



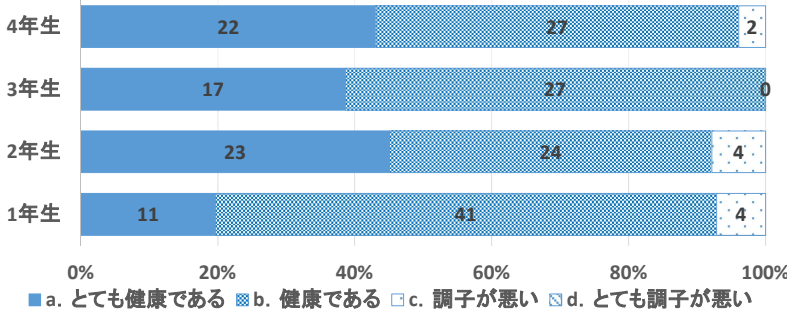
2025年度学生生活調査結果 27

Ⅶ. 心身の状況：心身ともに健康な状態か（n=202）

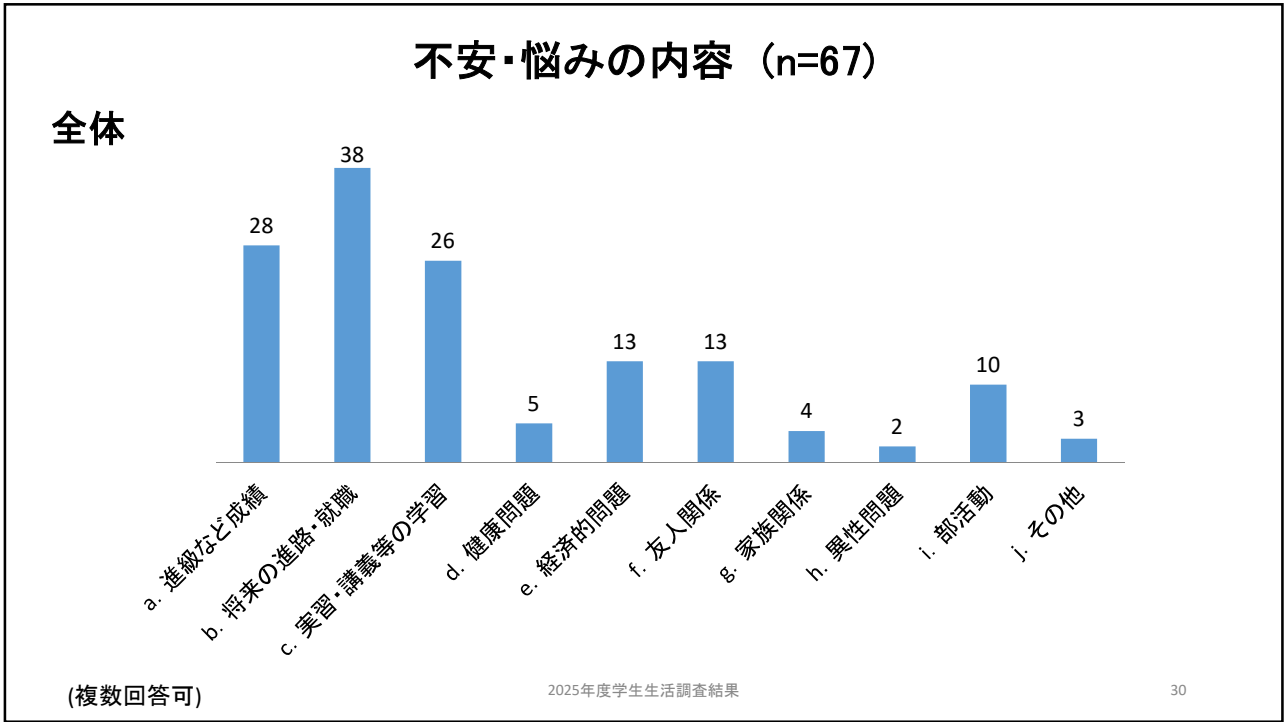
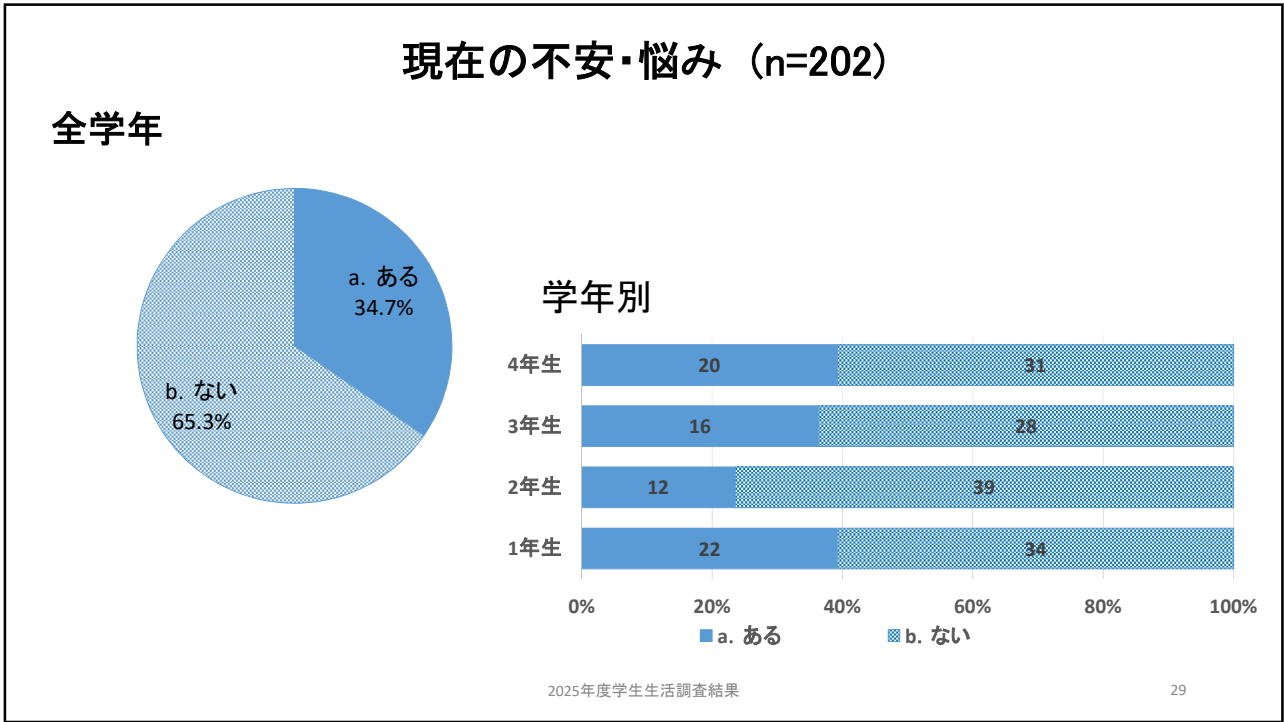
全学年

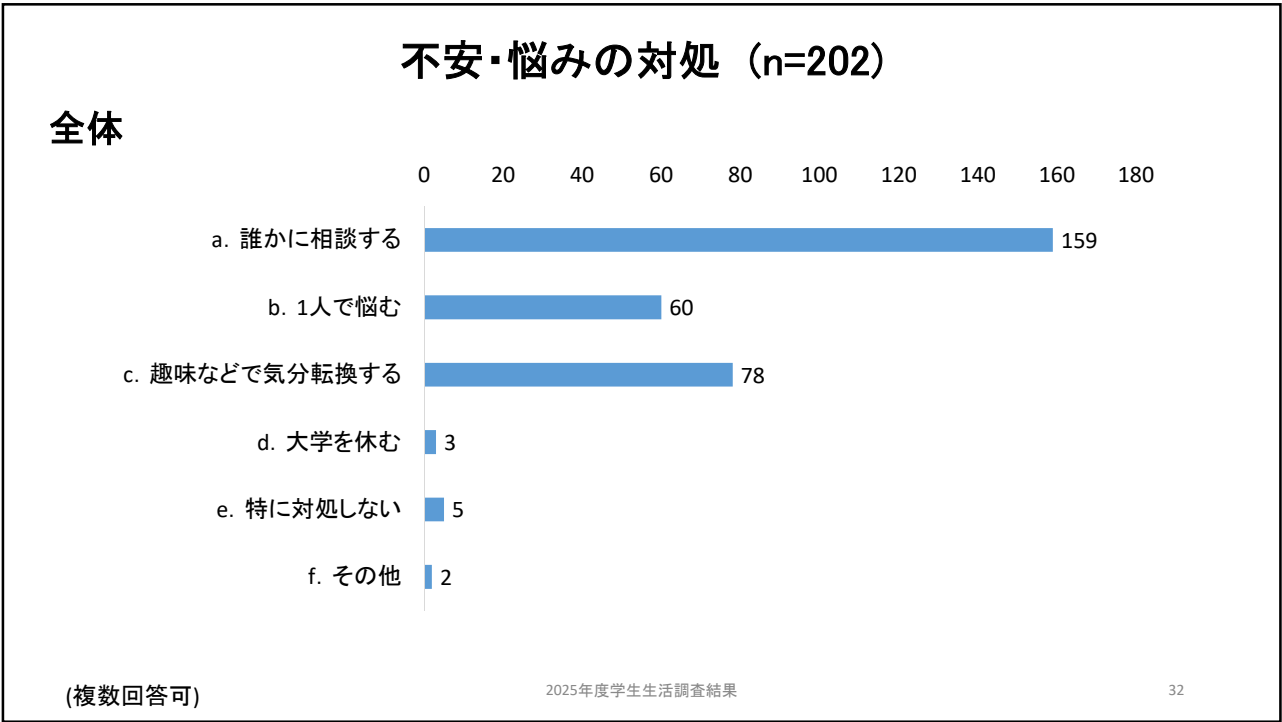
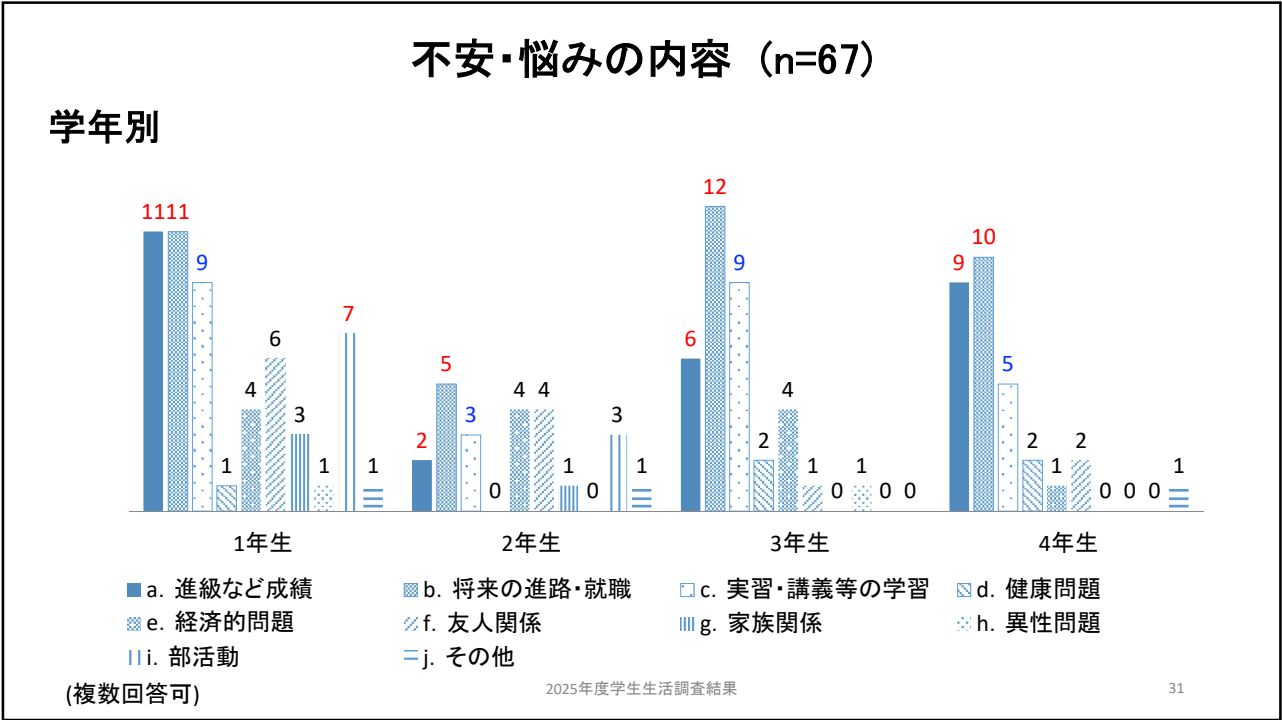


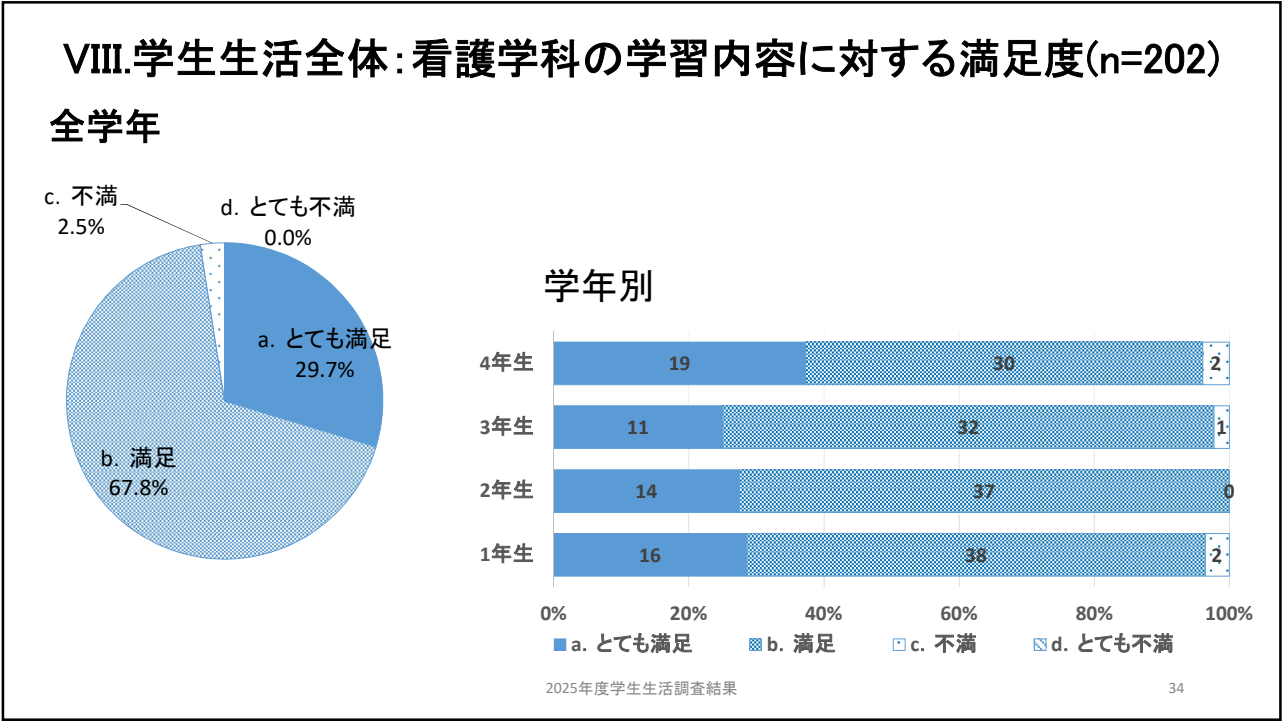
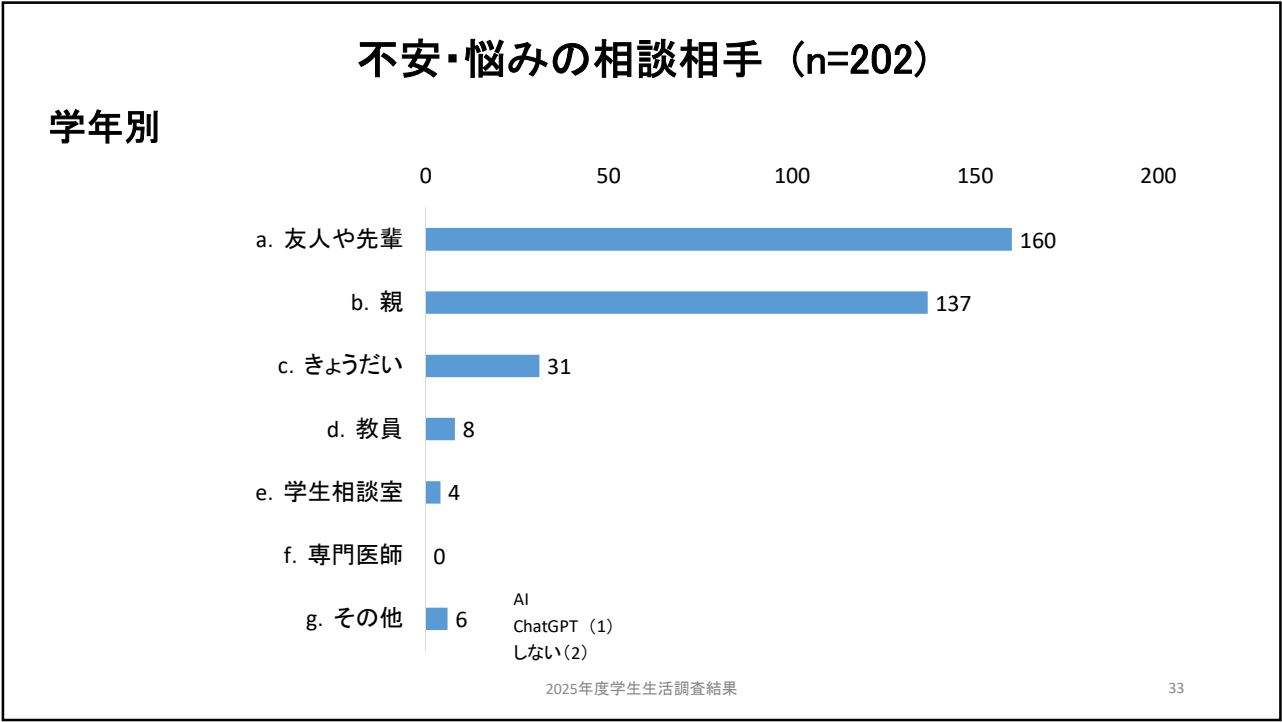
学年別

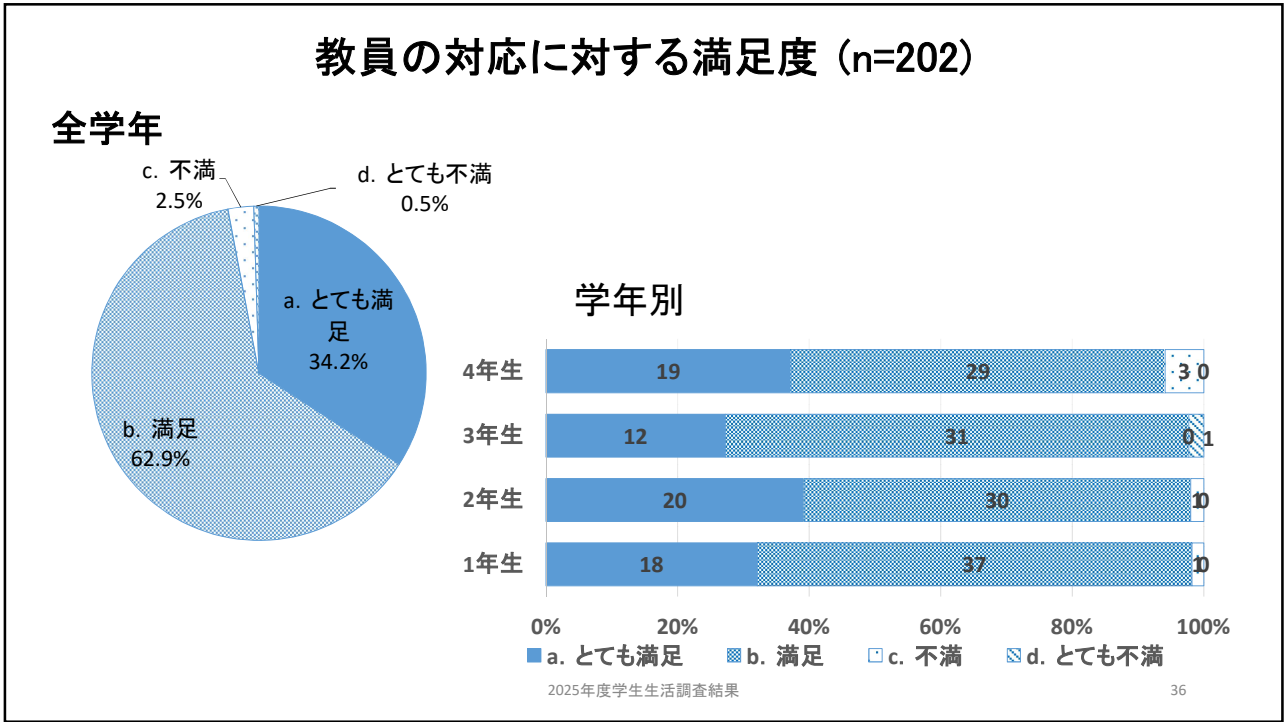
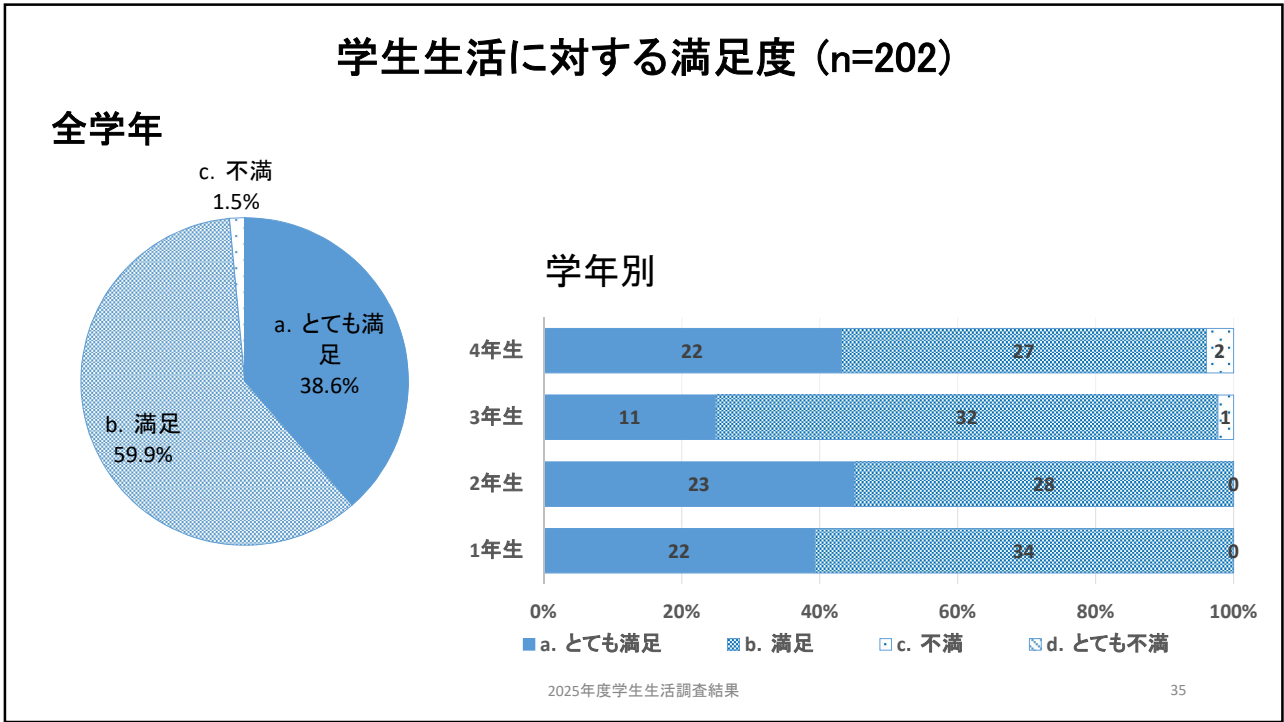


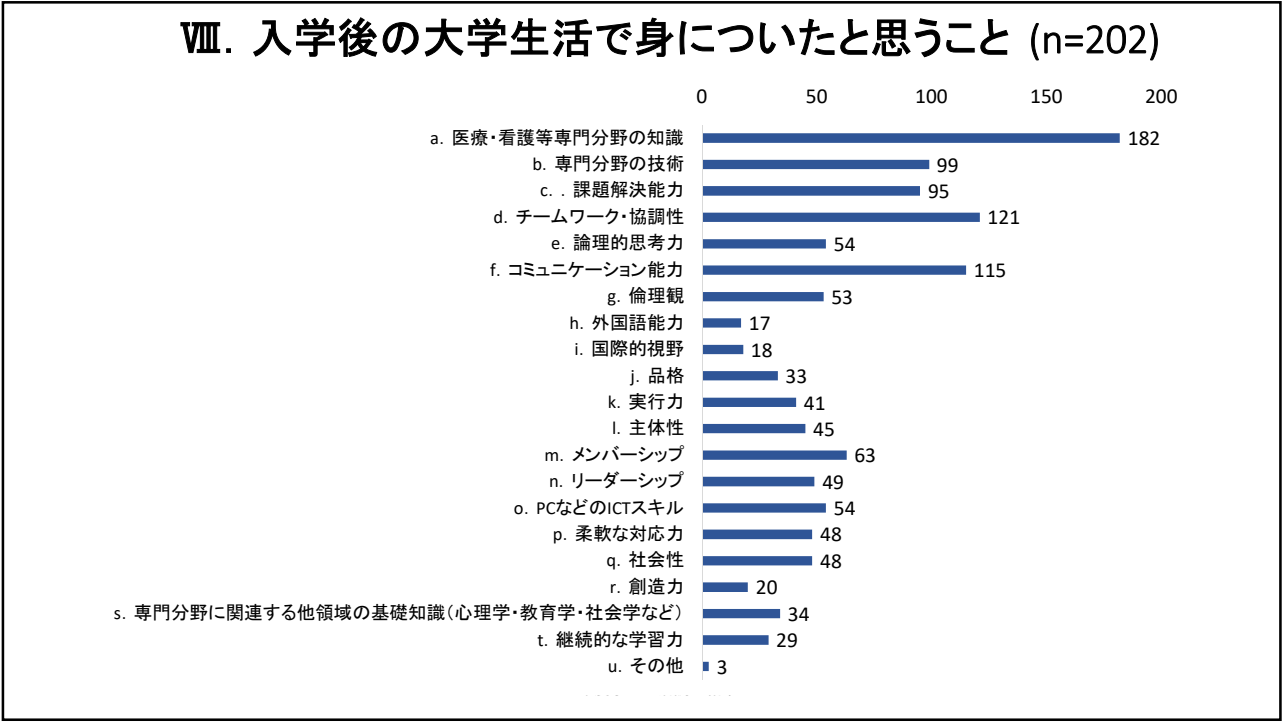
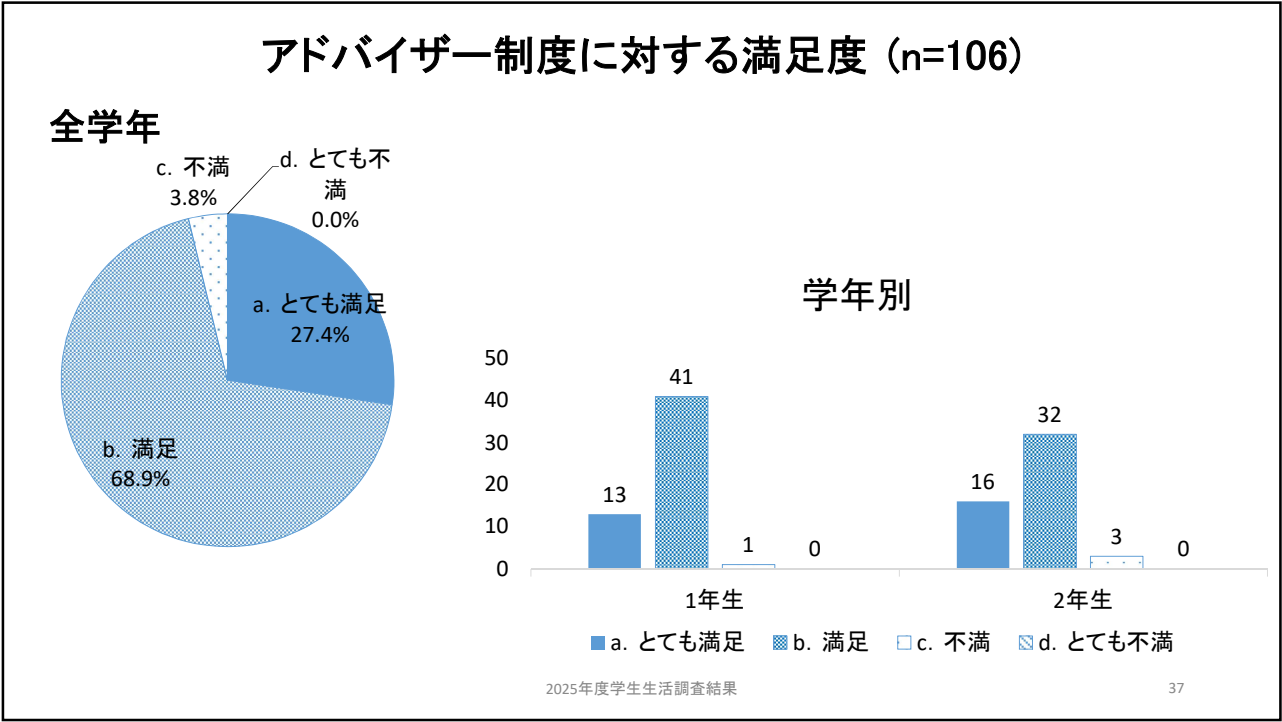
2025年度学生生活調査結果 28



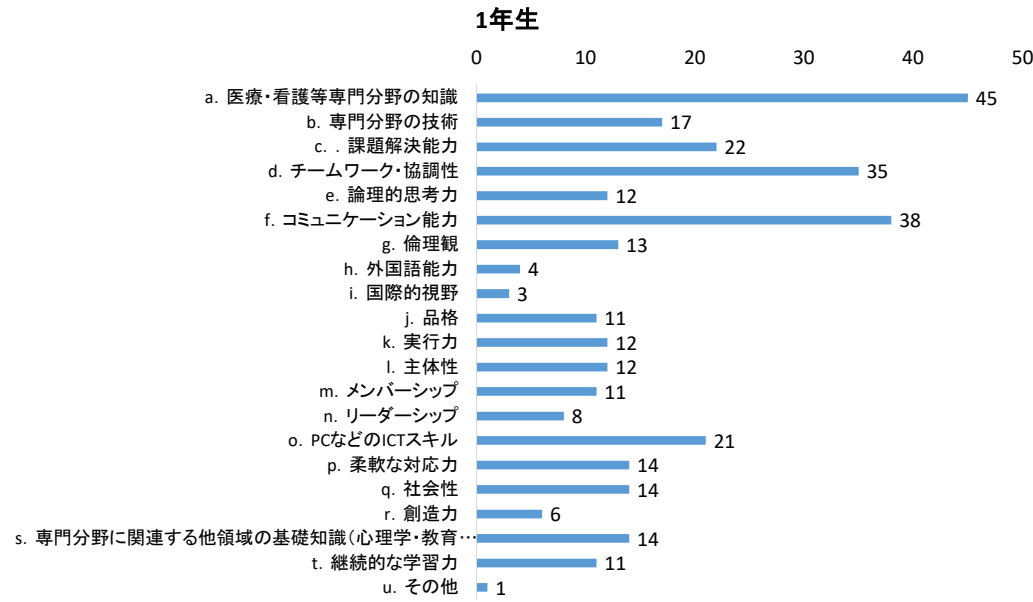




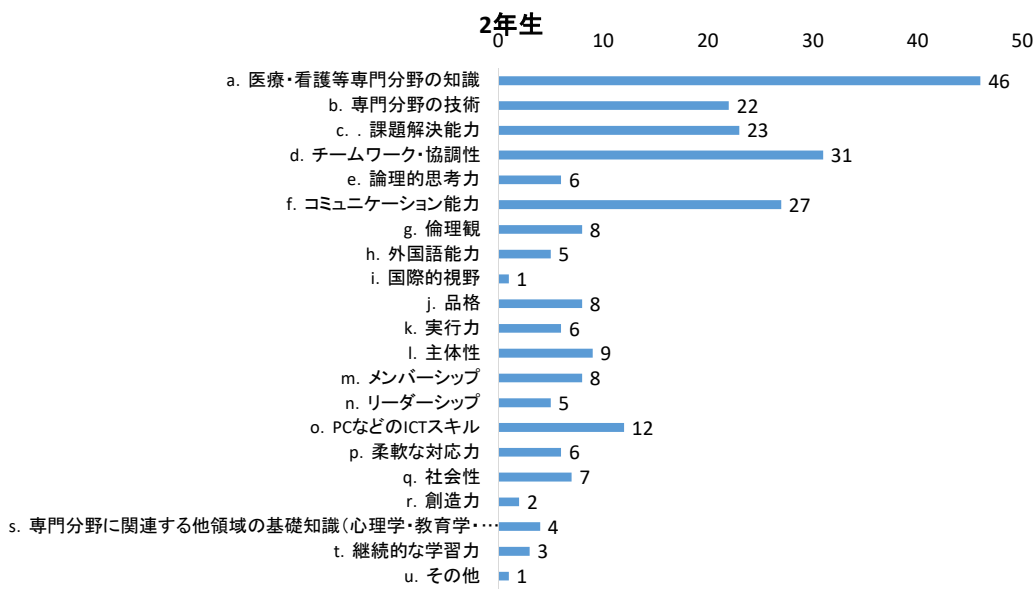




Ⅷ. 入学後の大学生活で身についたと思うこと



Ⅷ. 入学後の大学生活で身についたと思うこと



考察

I.基礎データ

学生は親と同居の学生が85.6%と最多、一人暮らしが13%で、東京近県から通学する例年同様の傾向であった。

II.学習状況:日々の予習復習時間は1時間未満が80%以上であり、定期試験前に集中して学習に取り組んでいる。

1、2年生は予習復習をほとんどしない学生が約半数であるが、学年進行とともに復習時間が増加する傾向は昨年同様である。試験対策の学習時間は3時間以上が7割を超えるが、科目横断総合試験結果から、知識の定着が課題であり、低学年から国家試験に向けた学習の積み上げの理解、自己学習時間の確保が必要である。

III.経済状態では、95%がアルバイトをしており、月の収入は5～10万円が55.1%と金額が増加傾向にあり、全学年を通して就業を継続する傾向がみられた。

- 月の生活費の内訳は5万円未満が最多の56.9%、5～10万円が32.2%で月収と同割合であり、アルバイト収入以上の生活費が必要な状況がある。
- 月の部活動・サークル活動費は、2万円未満が90%を占める一方で、4万円以上と月収に占める割合の大きい部活が1.9%あり、部活動による差異がみられた。部活動の満足度の自由記載に経済的負担が各学年で挙がっており、経費節約について検討が求められる。
- 経済状態が厳しいと回答した学生は23%と昨年同様で、アルバイトで生活を補う状況があると推察された。支出で調整が可能な費用では、交際費が昨年の29.6%から55.3%へ増加、食費は37%から19.9%へ減少した。アルバイトの頻度は週3日以内、土日の順に多く、調査が実習開始前の時期であるためか全学年の学生がアルバイトをしていた。週の労働時間は、10時間以上が3/4を占めるが、通学時間は1時間以上の学生の割合が多く、自由記載に「時間がない」との回答がみられ、大学での学習と部活動、アルバイトと多忙なスケジュールで大学生活を送る状況が示された。

2025年度学生生活調査結果

43

IV.1日の睡眠時間は、平均6時間未満の学生が57%と横ばい、1,2年生の睡眠時間が少ない傾向、4年生は標準的な睡眠時間を確保する傾向がみられた。

- 健康日本21では成人は1日6時間以上の睡眠を推奨している。睡眠とメンタルヘルスの関連が指摘されている。夜間の睡眠不足が授業中の眠気につながり学習へ支障をきたす可能性があり、アルバイト、部活動とのバランスを取り、睡眠時間を確保できることが望ましい。4年生は実習や授業が終わり、生活時間にゆとりができる時期と推察された。

V.本学では、学習、部活動、交流、アルバイトに参加する学生が多い。

- 本学では学内の部活動に参加している学生が9割以上であり、参加頻度は週2～3回が半数を占めた。学生は友人作りや社会活動、運動を楽しむ等、目的を持ち活動に参加しており、9割近い学生が活動を満足と感じていた。一方で、授業ハードスケジュール、活動時間、費用等との調整が必要な状況が示された
- 引退以外の辞めた理由には、費用、時間がないがあり、他の設問項目との関連が示唆された。
- ソーシャルメディア利用ガイドラインを知らない・守っていない学生がまだ14%いることから、継続した周知が必要である。
- SNSで困った内容に、ずっと見てしまう、依存傾向とを感じるが多く、低学年ほど問題に感じる学生が多い。依存傾向については、授業中や大学生活上の対策を専門家にアドバイスを得ることも有用である。

VI.学生の心身の健康状態は、95%が良好と回答した。

- 悩みや不安がある学生は35.5%と昨年より減少傾向であった。1,2年生では進級、将来の進路、友人関係、3年生は実習・講義等、4年生で再び進級、進路就職への不安が増加する傾向があり、学年進行に応じた支援が必要とされる。

VII.学習内容を満足に感じている学生97.5%、学生生活に満足と感じている学生は98%と全体的な満足度は高い。

- 学生は、専門知識をわかりやすく学べる授業内容、少人数制で丁寧なサポート・指導を受けられるなど本学の教育の特徴を肯定的に捉えていた。また、親身に話を聴く教員の姿勢が肯定的に受け止められていた。
- アドバイザー制度に95%が満足していた。面談等は丁寧に学生との連絡と実施が求められる。

VIII.入学後に身についた内容では、学年進行により涵養される項目が増加する一方で、外国語の能力、国際的視野、創造力、他領域の基礎知識等の涵養は課題とされた。

2025年度学生生活調査結果

44